



「最期まで住み慣れた家で」 を実現するために ～介護と仕事の両立支援の在り方～

1 「介護と仕事の両立」は突然やってくる

「介護なんて私には関係ない」そう思っていないですか？

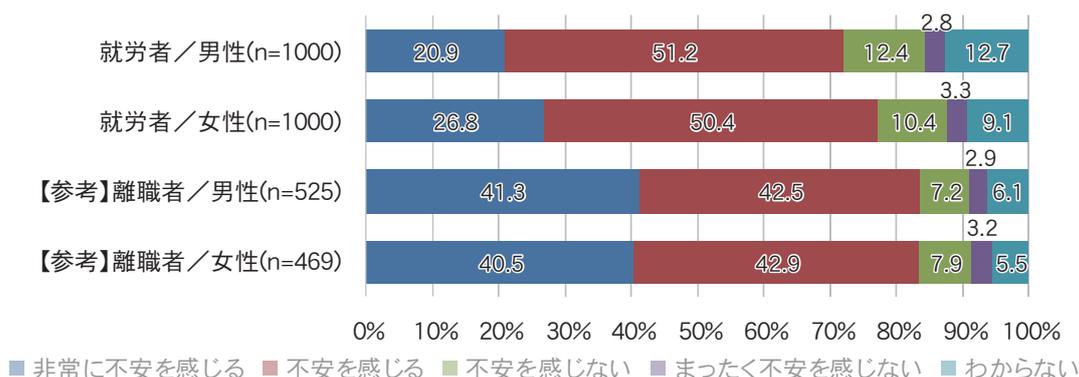
私自身も夢にも思っていないかもしれませんが、その日はある日突然訪れました。妻に乳がんが見つかり、骨転移により骨がもろくなり大腿骨を骨折、寝たきりの生活が始まったのです。当時はコロナ禍真っただ中、入院すれば面会制限で一切会えない、妻と一緒に過ごすための選択肢は在宅介護しか無かったのです。

介護は突然やってきます。いつ始まり、いつ終わるか分からない。それが介護です。70%以上の方が介護と仕事の両立に対して不安を感じているという調査結果があります。(図表1)

大切な人と一緒に暮らす、最期まで住み慣れた家で過ごす、そんな当たり前の選択を一人でも多くの方が実現できることを願い、今回は、私の経験も踏まえ、介護と仕事の両立支援の在り方について紹介いたします。

◆7割以上の方が仕事と介護の両立に不安を感じている

図表1 仕事と介護の両立に関する不安



※「離職者」については、離職前の状況を聞いています。

出典：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

「仕事と介護の両立に関する労働者アンケート調査」(平成24年度厚生労働省委託調査)

https://www.mhlw.go.jp/bunya/koyoukintou/dl/h24_itakuchousa05.pdf

2 以降は会員専用ページにて公開しております。

介護と仕事を両立できる働き方の実現ができれば、従業員の方は働き続けられず、会社は大切な人材を失います。ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページよりアクセスをお願いします。

① 少子高齢化

団塊世代の方が2025年には75歳を超え、働き盛りの団塊ジュニア世代が介護に直面する機会が増えます。団塊ジュニア世代は共働きが多く、子育て世代という特徴があります。したがって、家族介護となった場合に家庭内で協力し分けして介護を行うことが難しい環境にあります。

② 介護は長期化する

「介護は長期化する」といわれる中で、介護期間が長くなるという期間に対し介護休業は3か月と短い期間です。介護休業の3か月は休業者の方にとって十分な期間ではありません。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方ははこちらから](#)